

2023 年度「野生生物と社会」学会 総会 次第

日時：2023 年 12 月 2 日（土）11:00～12:00

場所：筑波大学筑波キャンパス 2B 棟 411

1. 会長挨拶（八代田会長）
2. 第九期理事会体制について（資料 1：事務局）
3. 【議決事項 1】2022 年度事業報告・決算報告および監査報告（資料 2 事務局、監事）
4. 【議決事項 2】2023 年度事業計画・予算計画（資料 3：事務局）
5. 【議決事項 3】会則の改訂について（資料 4：八代田会長）
6. 【報告事項 1】規約の改訂について（資料 5：事務局）
7. 【報告事項 2】2023 年度「野生生物と社会」学会表彰 受賞者の紹介（資料 6：事務局）
8. 【報告事項 3、4】学術誌およびフォーラム誌発行状況（資料 7、8 各誌編集委員長）
9. 【報告事項 5、6】活動報告：青年部会、行政研究部会（資料 9、10：各部会長）
10. 【その他 1】学会から発出した緊急声明について（資料 11：事務局）
11. 【その他 2】次年度大会について（富田副会長）

「野生生物と社会」学会第九期理事会

任期：2023年4月1日～2026年3月31日（WF誌編集長以外）

会 長：八代田千鶴（森林総合研究所）

副会長：富田涼都（静岡大学）

理 事（選出）：浅利裕伸（帯広畜産大学）、伊吾田宏正（酪農学園大学）、岩井雪乃（早稲田大学）、小池伸介（東京農工大学）、桜井良（立命館大学）、鈴木正嗣（岐阜大学）、湯本貴和（京都大学）、吉田正人（筑波大学）

理 事（会長推薦）：池田貴子（北海道大学）、中村大輔（農研機構）

事務局長：中村大輔（農研機構）

監事：小寺祐二（宇都宮大学）、土屋俊幸（林業経済研究所／日本自然保護協会）

※正副会長は理事を兼任する。

<学会誌編集委員長>

野生生物と社会：山端直人（兵庫県立大学）

ワイルドライフフォーラム：關義和（玉川大学）⇒岩井雪乃（早稲田大学）

<部会長>

青年部会：古賀達也（京都大学大学院）

行政研究部会：横山真弓（兵庫県立大学）

※理事（会長推薦枠）は3名余裕あり。

# 監査報告書

「野生生物と社会」学会  
会長 八代田 千鶴 殿

「野生生物と社会」学会会則および会計監査実施基準に基づき、2022年度の収支決算書の監査を実施いたしましたので、下記の通り結果を報告いたします。

記

異常が無いことを認める。

監査年月日： 2023 年 10 月 6 日

監査（自署） 小寺 祐二 

監査（自署） 土屋 俊幸 

以上

## 資料 2

2022年度「野生生物と社会」学会事業報告・会計報告

2022年度末（2023年3月末）会員数： 496名（詳細は次頁および資料3を参照）

### 1. 会議

理事会	2022年 5月22日	オンライン会議
	2022年10月28日	酪農学園大学+Zoomのハイブリッド開催
総会	2022年10月29日	酪農学園大学

### 2. 大会

第27回大会	2022年10月28日-10月30日	酪農学園大学（ハイブリッド開催）
--------	--------------------	------------------

### 3. 学会誌等

学術誌	2022年通年	10巻発行（J-STAGEにて順次掲載）
-----	---------	----------------------

フォーラム誌	2022年 8月	27巻1号発行
	2023年 2月	27巻2号発行

### 4. 部会活動等

青年部会	2022年 7月	初めて学ぶ鳥獣保護管理法
行政研究部会	2022年10月	鳥獣対策の実務に必要な人材の育成3 ～民間企業と行政双方の人材育成に役立つ関係性とは～

### 5. 表彰

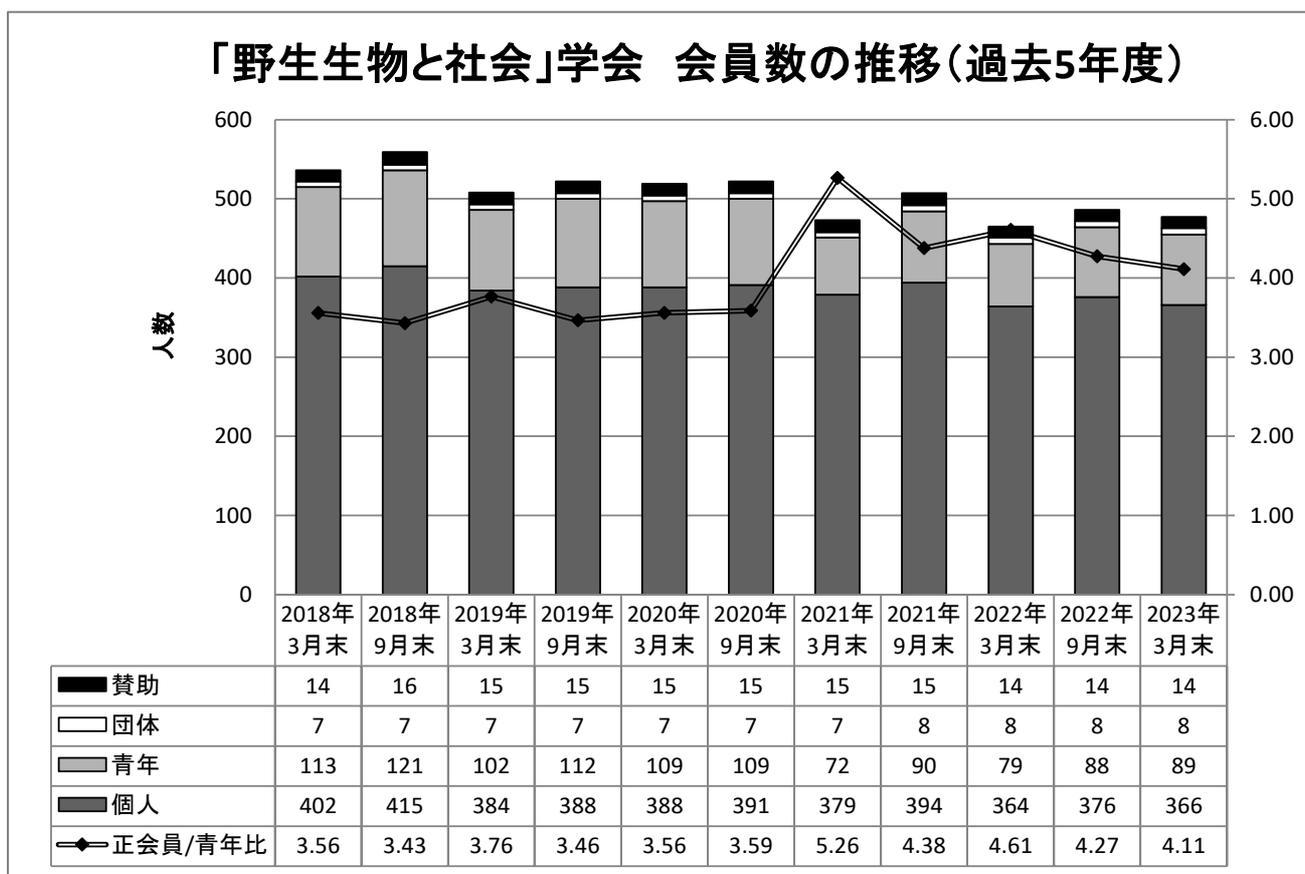
該当なし

### 6. その他

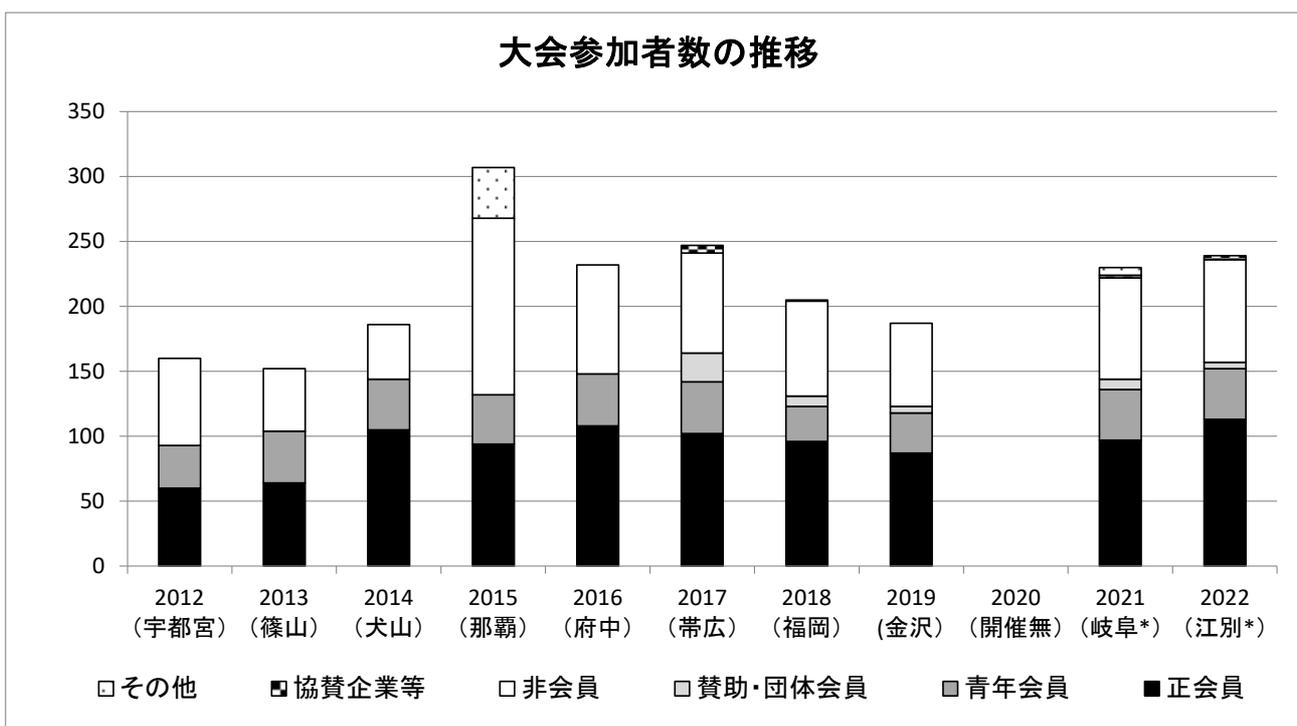
2022年12月 環境社会学会との合同セッション開催  
アフリカ熱帯林の住民参加型マネジメントの模索  
—実践研究プロジェクトの試みから—  
2021年11月～ 野生動物管理コアカリキュラムWG

資料 2

直近 5 年度の会員数の推移



最近の大会参加者数の推移 (2017 年度より集計区分を細分化)



## 「野生物と社会」学会 2022年度 会計報告書 (2022年4月1日～2023年3月31日)

## 【 1. 収支計算書 】

単位:円

科目	予算額	前期	後期	決算額	増減 (決算-予算)	備考
		4/1～9/30	10/1～3/31	(前期後期合計)		
<b>会費収入 合計</b>	<b>4,274,400</b>	<b>654,000</b>	<b>3,334,000</b>	<b>3,988,000</b>	△ 286,400	
～前年度会費	100,000	40,000	56,000	96,000	△ 4,000	
当年度会費	800,000	582,000	246,000	828,000	28,000	
次年度会費	3,374,400	32,000	3,032,000	3,064,000	△ 310,400	
<b>雑収入 合計</b>	<b>30</b>	<b>18</b>	<b>7</b>	<b>25</b>	△ 5	
電子図書著作権料	0	0	0	0	0	
バックナンバー・別刷	0	0	0	0	0	
預金利子	30	18	7	25	△ 5	
その他	0	0	0	0	0	
<b>フォーラム誌関係収入</b>	<b>222,000</b>	<b>22,540</b>	<b>220,700</b>	<b>243,240</b>	21,240	
F誌売上	6,000	4,540	22,700	27,240	21,240	
F誌広告	216,000	18,000	198,000	216,000	0	
<b>大会会計繰戻金</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>28,810</b>	<b>28,810</b>	28,810	2022年度大会余剰金
<b>当期収入合計(A)</b>	<b>4,496,430</b>	<b>676,558</b>	<b>3,583,517</b>	<b>4,260,075</b>	△ 236,355	
<b>前年度繰越額</b>	<b>3,715,399</b>	<b>3,715,399</b>	<b>0</b>	<b>3,715,399</b>	0	
<b>収入合計(B)</b>	<b>8,211,829</b>	<b>4,391,957</b>	<b>3,583,517</b>	<b>7,975,474</b>	△ 236,355	

科目	当初予算額	前期	後期	決算額	増減 (決算-予算)	備考
		4/1～9/30	10/1～3/31	(前期後期合計)		
<b>会誌発行費 合計</b>	<b>2,056,810</b>	<b>516,212</b>	<b>1,163,304</b>	<b>1,679,516</b>	△ 377,294	
総合誌印刷費	245,000	0	209,000	209,000	△ 36,000	有償配布+寄贈分
J-Stage掲載料	200,000	0	83,600	83,600	△ 116,400	
F誌制作費	1,261,810	513,700	746,460	1,260,160	△ 1,650	秋・冬号よりF誌編集費値上げ
総合誌編集事務費	250,000	2,512	124,244	126,756	△ 123,244	
総合編集会議旅費	0	0	0	0	0	
F誌編集委員会費	100,000	0	0	0	△ 100,000	
<b>会誌発送関係費</b>	<b>100,000</b>	<b>48,515</b>	<b>49,247</b>	<b>97,762</b>	△ 2,238	
<b>事務局運営費</b>	<b>180,000</b>	<b>15,862</b>	<b>180,748</b>	<b>196,610</b>	16,610	コピー代、郵送料、会誌保管料等
<b>委託料</b>	<b>2,073,500</b>	<b>610,500</b>	<b>1,243,000</b>	<b>1,853,500</b>	△ 220,000	
会員業務	440,000	220,000	220,000	440,000	0	
事務局設置費	55,000	27,500	27,500	55,000	0	
会計業務	660,000	330,000	330,000	660,000	0	
フォーラム誌投稿窓口	66,000	33,000	33,000	66,000	0	
編集業務	852,500	0	632,500	632,500	△ 220,000	投稿数超過分見込む
<b>青年部会費</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>200,000</b>	<b>200,000</b>	200,000	研究会等で必要な場合には請求
<b>行政部会費</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	0	研究会等で必要な場合には請求
<b>ホームページ関係費</b>	<b>599,500</b>	<b>20,675</b>	<b>311,190</b>	<b>331,865</b>	△ 267,635	
<b>手数料 合計</b>	<b>20,000</b>	<b>5,610</b>	<b>13,145</b>	<b>18,755</b>	△ 1,245	
振込手数料	10,000	3,795	4,070	7,865	△ 2,135	
その他手数料	10,000	1,815	9,075	10,890	890	会誌販売手数料
<b>その他 合計</b>	<b>145,000</b>	<b>101,674</b>	<b>66,256</b>	<b>167,930</b>	22,930	
理事会費	25,000	22,110	0	22,110	△ 2,890	zoom利用料計上
コアカリWG会議旅費	0	0	0	0	0	
学会賞関連経費	50,000	0	0	0	△ 50,000	
選挙管理費	50,000	69,564	66,256	135,820	85,820	
雑費	20,000	10,000	0	10,000	△ 10,000	男女共同参画学協会分担金
<b>大会支援費</b>	<b>100,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	△ 100,000	
<b>大会会計繰入金</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	0	
<b>支出合計(C)</b>	<b>5,274,810</b>	<b>1,319,048</b>	<b>3,226,890</b>	<b>4,545,938</b>	△ 728,872	
<b>次期繰越収支差額(B-C)</b>	<b>2,937,019</b>	<b>3,072,909</b>	<b>356,627</b>	<b>3,429,536</b>	492,517	
<b>単年度修正(A-C)</b>	<b>△ 778,380</b>			<b>△ 285,863</b>	492,517	

## 2023年度「野生生物と社会」学会事業計画・予算案

## 1. 会員

会員区分	個人	青年	団体	賛助	合計
2022年度当初会員数	364	79	8	14	465
新入会員数	21	21	1	0	43
退会者数	△ 39	△ 11	0	△ 1	△ 51
会員区分変更者	3	△ 3	0	0	7
2022年度末会員数	366	89	8	14	477
増減	2	10	0	0	12

## 2. 会議

理事会 2023年 5月30日 地球環境パートナーシッププラザ+Zoom会議  
(ハイブリッド形式)

2023年12月 1日 筑波大学

総会 2023年12月 2日 筑波大学

## 3. 大会

第28回大会 2023年12月1-3日 筑波大学 (現地開催)

## 4. 学会誌等

学術誌 通年11巻 (J-STAGEにて順次掲載、2023年1~12月搭載分が対象)  
2024年 3月 11巻冊子体発行予定 (有償配布分)

WF誌 2023年 8月 28巻1号発行予定  
2024年 2月 28巻2号発行予定

## 5. 部会活動等

各部会提出資料を参照

## 6. 表彰

学会賞、若手奨励賞について公募 (6月~)、選考を経て大会開催時に表彰予定  
学会功労賞は理事による推薦で大会開催時に表彰予定

## 7. その他

野生動物管理コアカリキュラムの検討 (コアカリWG)

資料 3

「野生生物と社会」学会 2023年度予算案 (2023年4月1日～2024年3月31日)

【 1. 収支計算書 】

科目	2023年度予算額	2022年度予算額	増減 (2023-2022)	2022年度決算額 (参考)	2021年度決算額 (参考)	2021年度決算額 との比較	当年度予算備考
<b>会費収入 合計</b>	<b>4,259,200</b>	<b>4,274,400</b>	<b>△ 15,200</b>	<b>3,988,000</b>	<b>4,166,000</b>	<b>271,200</b>	
～前年度会費	80,000	100,000	△ 20,000	96,000	136,000	△ 16,000	
当年度会費	800,000	800,000	0	828,000	858,000	△ 28,000	
次年度会費	3,379,200	3,374,400	4,800	3,064,000	3,172,000	315,200	例年どおり、8割と想定
<b>雑収入 合計</b>	<b>30</b>	<b>30</b>	<b>0</b>	<b>25</b>	<b>31</b>	<b>5</b>	
バックナンバー	0	0	0	0	0	0	
預金利子	30	30	0	25	31	5	
その他	0	0	0	0	0	0	
<b>雑誌関係収入</b>	<b>222,000</b>	<b>222,000</b>	<b>0</b>	<b>243,240</b>	<b>222,811</b>	<b>△ 21,240</b>	
雑誌売上	6,000	6,000	0	27,240	6,811	△ 21,240	
雑誌広告	216,000	216,000	0	216,000	216,000	0	
<b>大会会計繰戻金</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>28,810</b>	<b>0</b>	<b>△ 28,810</b>	
<b>当期収入合計(A)</b>	<b>4,481,230</b>	<b>4,496,430</b>	<b>△ 15,200</b>	<b>4,260,075</b>	<b>4,388,842</b>	<b>221,155</b>	
<b>前年度繰越額</b>	<b>3,429,536</b>	<b>3,715,399</b>	<b>△ 285,863</b>	<b>3,715,399</b>	<b>4,634,553</b>	<b>△ 285,863</b>	
<b>収入合計(B)</b>	<b>7,910,766</b>	<b>8,211,829</b>	<b>△ 301,063</b>	<b>7,975,474</b>	<b>9,023,395</b>	<b>△ 64,708</b>	

科目	2023年度予算額	2022年度予算額	増減 (2023-2022)	2022年度決算額 (参考)	2021年度決算額 (参考)	2021年度決算額 との比較	当年度予算備考
<b>会誌発行費 合計</b>	<b>2,270,000</b>	<b>2,056,810</b>	<b>213,190</b>	<b>1,679,516</b>	<b>1,934,250</b>	<b>590,484</b>	
総合誌印刷費	250,000	245,000	5,000	209,000	244,200	41,000	有償配布+寄贈分
J-STAGE掲載費	200,000	200,000	0	83,600	442,640		
F誌制作費	1,460,000	1,261,810	198,190	1,260,160	1,045,000	199,840	
総合誌編集経費	360,000	250,000	110,000	126,756	202,410	233,244	Copy Editor支払い分を追加
総合誌編集会議旅費	0	0	0	0	0	0	
F誌編集委員会費	0	100,000	△ 100,000	0	0	0	
<b>会誌発送関係費</b>	<b>100,000</b>	<b>100,000</b>	<b>0</b>	<b>97,762</b>	<b>98,187</b>	<b>2,238</b>	
<b>事務局運営費</b>	<b>180,000</b>	<b>180,000</b>	<b>0</b>	<b>196,610</b>	<b>177,795</b>	<b>△ 16,610</b>	
<b>委託料</b>	<b>2,073,500</b>	<b>2,073,500</b>	<b>0</b>	<b>1,853,500</b>	<b>2,073,500</b>	<b>220,000</b>	
会員業務	440,000	440,000	0	440,000	440,000	0	
事務局設置費	55,000	55,000	0	55,000	55,000	0	
会計業務	660,000	660,000	0	660,000	660,000	0	
フォーラム誌投稿窓口	66,000	66,000	0	66,000	66,000	0	
編集業務	852,500	852,500	0	632,500	852,500	220,000	投稿数超過分見込む
<b>青年部会費</b>	<b>200,000</b>	<b>0</b>	<b>200,000</b>	<b>200,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	部会予算編成 理事会交通費込
<b>行政部会費</b>	<b>100,000</b>	<b>0</b>	<b>100,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>100,000</b>	部会予算編成 理事会交通費込
<b>ホームページ関係費</b>	<b>333,500</b>	<b>599,500</b>	<b>△ 266,000</b>	<b>331,865</b>	<b>384,665</b>	<b>1,635</b>	デザインリニューアルは無し
<b>手数料 合計</b>	<b>20,000</b>	<b>20,000</b>	<b>0</b>	<b>18,755</b>	<b>11,162</b>	<b>1,245</b>	
振込手数料	10,000	10,000	0	7,865	7,076	2,135	
その他手数料	10,000	10,000	0	10,890	4,086	△ 890	
<b>その他 合計</b>	<b>194,742</b>	<b>145,000</b>	<b>49,742</b>	<b>167,930</b>	<b>33,760</b>	<b>26,812</b>	
理事会費	134,742	25,000	109,742	22,110	22,110	112,632	対面+ZoomPro利用料計上
コアカリWG関連費	0	0	0	0	0	0	
学会賞関連経費	50,000	50,000	0	0	0	50,000	
選挙管理費	0	50,000	△ 50,000	135,820	0	△ 135,820	
雑費	10,000	20,000	△ 10,000	10,000	11,650	0	男女共同参画学協会分担金
<b>大会支授費</b>	<b>100,000</b>	<b>100,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>594,677</b>	<b>100,000</b>	
<b>支出合計(C)</b>	<b>5,571,742</b>	<b>5,274,810</b>	<b>296,932</b>	<b>4,545,938</b>	<b>5,307,996</b>	<b>1,025,804</b>	

次期繰越収支差額 (B-C)	2,339,024	2,937,019	-	3,715,399	3,715,399	-
単年度収支差額 (A-C)	△ 1,090,512	△ 778,380	-	△ 285,863	△ 919,154	-

<会計に関する備考>

- ・HPのデザインリニューアルのため作業費を引き続き計上(約45万円)。
- ・F誌については昨年度と同予算を想定している。
- ・総合誌編集会議旅費とF誌編集委員会費は、web会議が可能になった関係で、数年支出がゼロなので、理事会にて確認して項目を削除。

## 資料 3

## 【2022年度 会員数の推移】

2023年3月30日現在

単位:人

	会員区分					会員数 累計	
	個人	青年	団体	賛助	合計		
年度当初会員数(4/1現在)	383	91	8	14	496	496	
新 入 会 者 数	2022年 4月	2	1		3	499	
	5月	1			1	500	
	6月	4	1		5	505	
	7月	1	1		2	507	
	8月	1	2		3	510	
	9月	1	11		12	522	
	4月～9月小計	10	16	0	0	26	522
	10月	2	3		5	527	
	11月	3	1		4	531	
	12月				0	531	
	2023年 1月	1	1		2	533	
	2月	0	0		0	533	
	3月	0	0		0	533	
	10月～3月小計	6	5	0	0	11	533
今年度新入会者計	16	21	0	0	37	-	
退 会 者 数	会費滞納退会措置者	△ 15	△ 12	0	0	△ 27	
	年度途中退会者	△ 8	△ 5	0	0	△ 13	
	2022年度末退会者	△ 16	0	0	0	△ 16	
	今年度退会者計	△ 39	△ 17	0	0	△ 56	477
今年度中 区分変更者数 (個人→青年変更等)	6	△ 6					
	0	0				-	
会員数合計	366	89	8	14	477	477	
会費免除	0	0	0	0	0	0	
住所不明者	21	12	0	1	33		
複数年滞納 除籍予定者	15	11	0	0	26		
(内、複数年滞納+住所不明) 除籍予定者	4	9	0	0	13		
寄贈先					3		

## 【会費納付状況】

2023年3月31日現在

単位:人

納付状況		個人	青年	団体	賛助	小計	合計	割合
納 付	2022年度まで納付済み	326	65	8	14	413	413	86.6%
	内、住所不明者	4	6	0	1	11		
未 納 有	2022年度のみ未納	14	9	0	0	23	23	4.8%
	内、住所不明者	5	4	0	0	9		
	複数年滞納者 未納有り	26	15	0	0	41	41	8.6%
	内、住所不明者	7	4	0	0	11		
免 除	会費免除(海外在住等)	0	0	0	0	0	0	0.0%
合 計		366	89	8	14		477	

## 会則の改正案 新旧対照表

新	旧
<p>第2章 会員</p> <p>第5条</p> <p>本会会員は、正会員、青年会員、<u>フォーラム誌会員</u>、団体会員および賛助会員とし、別に名誉会員を置くことができる。</p> <p>1. 正会員は、本会に入会を希望し、正会員会費を納めた個人。</p> <p>2. 青年会員は、会計年度初日において満35歳以下であって本会に入会を希望し、青年会費を納めた個人。ただし、該当者が希望して正会員になることを妨げない。</p> <p>3. <u>フォーラム誌会員は、本会に入会を希望し、フォーラム誌会員費を収めた個人、法人、機関および任意団体。</u></p> <p>4. 団体会員は、本会に入会を希望し、団体会費を納めた法人、機関および任意団体。</p> <p>5. 賛助会員は、本会の目的に賛同し、賛助会費を納めた法人、機関および任意団体。</p> <p>6. 名誉会員は、本会の発展に大きな貢献があった会員のうちから、理事会の推薦により、総会において決定する。名誉会員は、終身とし、会費を免除する。</p>	<p>第2章 会員</p> <p>第5条</p> <p>本会会員は、正会員、青年会員、<u>団体会員</u>および賛助会員とし、別に名誉会員を置くことができる。</p> <p>1. 正会員は、本会に入会を希望し、正会員会費を納めた個人。</p> <p>2. 青年会員は、会計年度初日において満35歳以下であって本会に入会を希望し、青年会費を納めた個人。ただし、該当者が希望して正会員になることを妨げない。</p> <p>3. 団体会員は、本会に入会を希望し、団体会費を納めた法人、機関および任意団体。</p> <p>4. 賛助会員は、本会の目的に賛同し、賛助会費を納めた法人、機関および任意団体。</p> <p>5. 名誉会員は、本会の発展に大きな貢献があった会員のうちから、理事会の推薦により、総会において決定する。名誉会員は、終身とし、会費を免除する。</p>
<p>第7条</p> <p>本会会員は、次の権利を有する。</p> <p>1. 本会発行の学術定期刊行物の受領</p> <p>2. 本会発行の刊行物への投稿。ただし、<u>フォーラム誌会員（法人、機関および任意団体においては所属メンバー）が筆頭著者として研究発表できるのは、「Wildlife Forum」のみとする。</u>団体会員の所属メンバーで筆頭著者として研究発表を行うことができるのは、各年度3名までとする。賛助会員については、筆頭著者として研究発表を行うことはできない。</p> <p>3. 本会主催の集会への出席と研究発表。ただし、団体会員の所属メンバーで筆頭演者として</p>	<p>第7条</p> <p>本会会員は、次の権利を有する。</p> <p>1. 本会発行の学術定期刊行物の受領</p> <p>2. 本会発行の刊行物への投稿。ただし、<u>団体会員の所属メンバーで筆頭著者として研究発表を行うことができるのは、各年度3名までとする。賛助会員については、筆頭著者として研究発表を行うことはできない。</u></p> <p>3. 本会主催の集会への出席と研究発表。ただし、団体会員の所属メンバーで筆頭演者として</p>

資料 4

<p>研究発表を行うことができるのは、各年度3名までとする。<u>フォーラム誌会員と賛助会員</u>については、筆頭演者として研究発表を行うことはできない。</p> <p>4. 総会への出席および本会の運営への参加。ただし議決権については、正会員および青年会員に限られる。</p> <p>5. 本会役員の選挙権と被選挙権。ただし、選挙権は正会員および青年会員に、また被選挙権は正会員に限られる。</p> <p>6. その他賛助会員の権利については、別途理事会が賛助会員特典規約に定めるものとする。</p>	<p>研究発表を行うことができるのは、各年度3名までとする。賛助会員については、筆頭演者として研究発表を行うことはできない。</p> <p>4. 総会への出席および本会の運営への参加。ただし議決権については、正会員および青年会員に限られる。</p> <p>5. 本会役員の選挙権と被選挙権。ただし、選挙権は正会員および青年会員に、また被選挙権は正会員に限られる。</p> <p>6. その他賛助会員の権利については、別途理事会が賛助会員特典規約に定めるものとする。</p>
<p>施行期日 (中略) この会則は 2018 年 11 月 24 日より改訂する。 <u>この会則は 2023 年 12 月 2 日より改訂する。</u></p>	<p>施行期日 (中略) この会則は 2018 年 11 月 24 日より改訂する。</p>

2023 年 12 月 2 日

## 規約等の改訂について

「野生生物と社会」学会事務局長  
中村 大輔

理事会審議におきまして下記の規約等について改訂いたしましたので報告します。最新の規約については当会ウェブサイトにて公開しておりますので、記載の URL からご確認ください。

「野生生物と社会」学会表彰規約（2023 年 5 月 30 日改訂）

<http://wildlife-humansociety.org/info/kiyaku/hyousyou.html>

学会誌編集委員会規約（2023 年 5 月 30 日改訂）

<http://wildlife-humansociety.org/info/kiyaku/ronbunshihensyuu.html>

事務局所在地規約（2023 年 5 月 30 日改訂）

<http://wildlife-humansociety.org/info/kiyaku/jimukyoku.html>

賛助会員規約（2023 年 5 月 30 日改訂）

<http://wildlife-humansociety.org/info/kiyaku/chosakuken.html>

論文投稿規定、原稿の書き方ほか（2023 年 5 月 30 日改訂）

<http://wildlife-humansociety.org/toukou/toukou.html>

## 2023 年度「野生生物と社会」学会賞 受賞者

2023 年 11 月 1 日および 13 日に開催された学会表彰審査委員会ならびに 2023 年 11 月 8 日および 11 月 19 日の理事会 ML 審議により、2023 年度は学会賞 1 名、学会功労賞 1 名を表彰することとなりました。

### 2023 年学会賞 受賞者 (1 名)

山端 直人 氏 (兵庫県立大学 自然環境科学研究所 森林動物系 教授)  
「獣害という社会課題の解決につなげる一連の研究と実践」

### 2023 年若手奨励賞

該当者無し

### 2023 年学会功労賞 受賞者 (1 名)

(物故) 小金澤 正昭 氏 (宇都宮大学 名誉教授)

**資料 7**

## 令和 5 年度「野生生物と社会」学会誌編集委員会・理事会報告資料

編集委員会：2023 年 5 月 1 日 15:00～ オンライン会議

理 事 会：2023 年 5 月 30 日 13:30～18:30 対面・オンライン会議

## 1) 学会誌発行状況（2023 年 4 月現在）

## ○掲載論文数

巻	発行年	原著論文	短報	事例報告	データジャーナル	合計
7	2020	3	1	1	0	5
8	2021	3	0	2	2	7
9	2022	3	0	4	0	7
10	2023	3	1	4	2	10
11	2023					
	J-Stage 掲載済	1	1	2	1	5
	受理(幹事校正中)	4	2	1		7
	査読中	4	1	1		6

## ○論文投稿数

投稿年	投稿数	うち却下・取り下げ
2019	11	4
2020	18	10
2021	23	6
2022	15	7
2023 (4 月まで)	3	0

## 2) 協議事項

## (1) コピーエディター (CE) の増員について

編集幹事の負担軽減のため、受理済み原稿と入稿後のゲラチェックを依頼  
 任期は年度末 (3 月) までを一区切りとする。再任可能。

→1 名採用、他に 1~2 名継続して募集 (学生でも OK)

対面開催の際にアナウンスを検討する

学会員に限らない、文章の校正の能力が高い人

研究補助や秘書的業務の方、TS、青年部会、理事会で推薦を

## 資料 7

報酬：刷り上がり 1 ページあたり 800 円

作業の流れ：受理済み原稿、入稿後のゲラチェックの 2 回確認

確認内容：書式，誤字脱字，表記揺れ，引用文献の表記など

### (2) 編集委員の増員について

H22 年度中に東口阿希子さん、角田裕志さんに就任いただき現在 22 名（名簿改定）

編集幹事を 2 → 4 名に増員したい

編集幹事の任命について規約に明記されていなかったため編集委員会規約の変更  
委員会で承認後理事会に提出

### (3) 編集委員会規約と投稿規定の改定について

- ・ (2) への対応のために編集委員会規約を改定
- ・ AI ツールの取り扱い、プレプリントサーバーへの対応のため投稿規定を改定

## 3) 報告事項

### (1) J-stage data の利用

→利用申込手続き終了

「原稿の書き方」の改訂が必要

※かなりの改訂が必要なため、現在利用の手順や投稿規定の改定も含めて検討中

### (2) プレプリントサーバー

査読前原稿をオープンアクセスで公開するサーバー

2022 の編集委員会にて受け付ける方針で決定

「投稿規定」の改訂→編集委員会で承認を得る

## 4) その他

### (1) 特集の企画について

- ・ 大会 TS の特集を吉田さん進行中

## Wildlife Forum 誌編集委員会 報告

2023 年 5 月 30 日 (火)

編集委員長 關 義和

### 1. 2023 年度第一回編集会議内容等

下記の通り今年度第一回目となる編集会議を開催しました。

【日時】 2023 年 5 月 1 日 10:00～12:00

【方法】 ZOOM

【出席者】 6 名： 關（玉川大）、三ツ井（富士山研）、瀧本（日獣大）、満尾（長野大）、松田（栃木県）、古賀（京大）

#### 【議題・確認事項】

- (1) 編集委員長の選出と編集体制について
- (2) 編集委員の役割分担
- (3) 執筆未依頼による発行遅れ
- (4) 発行時期の検討
- (5) WF 誌のコスト削減の必要性
- (6) 28 巻 2 号の誌面構成および担当決め
- (7) 28 巻 1 号の進捗・予定

### 2. 支出予算額 ※編集会議に伴う交通費

ZOOM による実施のため、支出なし

### 3. 今後の編集体制

編集委員長：關義和

副編集委員長：三ツ井聡美、瀧本樹

編集委員：草刈秀紀、古賀達也、佐々木智恵、澤田誠吾、田代優秋、松田奈帆、満尾世志人、本橋篤、横山実咲

## 4. 進捗状況と報告事項および今後の編集方針

- (1) 28巻1号は、概ね順調に編集作業が進んでいる（2023年8月発行予定）
- (2) 編集委員長の選出方法の検討
- ・ 編集委員長の交代がうまくまわっていない（断る方が多い）
  - ・ ワイルドライフ・フォーラム編集委員会規約第3条で「編集委員長は、理事会において正会員より選出し、会長が委嘱する。編集委員長は、編集委員会を代表し、会務を統括する」と明記されているが、慣例的に内々で決定（期間も3年ではない）
  - ・ **編集長を理事会で決定**できる場合には、以下の体制で進める予定
    - ① 継続意思のある編集委員は継続し、人数に満たない場合には編集委員長が新規に指名
    - ② 編集委員には必ず青年部会と行政部会からそれぞれ1名以上の担当者を選出
    - ③ 編集委員長の仕事を補佐する副編集委員長や編集補助担当者（仮称）を選出
    - ④ 任期が3年の場合、1号は刊行が夏のため、それまでは実質上任期が続く形となり得る

表 1. 編集委員の役割分担（仮）.

項目	仕事の種類	編集委員長		副編集委員長		編集委員	
		現行	改定案	現行	改定案	現行	改定案
会議 関連	会議の日程調整・招集	○			○		
	会議の議長	○	○				
	理事会への出席	○	○	△	△		
	会議・理事会資料の作成	○	○				
原稿 関連	著者への執筆・修正依頼	○		○	△	○	○
	原稿（文章等）の確認	○		○	△	○	○
	編集委員担当原稿の最終確認	○	○	○	○		
	広告会社への原稿依頼・確認					○	○
	台割の作成	○	確認のみ		○		
	目次・奥付等の作成	○	確認のみ		○		
	デザイン会社への原稿送付	○			○		
	著者校正（1校の確認）	○	○	○	○	○	○
	著者校正（2校の確認）	○	○	○	○		○
	著者校正（3校以降の確認）	○	○	○	○		
著者校正（著者への確認依頼）	○		○	△	○		
事務 関連	ML管理	○		○	○	○	○
	Jstageへの登録依頼	○			○		
	HPへの献本掲載依頼	○			○		
	著者への献本の有無確認	○		○	△	○	○
	献本管理	○			○		
	献本送付依頼	○			○		
	御礼分の作成と送付依頼	○			○		
	請求書（広告会社）の作成と送付依頼	○			○		
	完成版PDFの事務局への送付	○			○		
	支出伝票の作成・事務局への送付	○			○		
	原稿・書評の募集連絡	○			○		
	他（原稿の進捗状況の確認など）	○			○		
	広告会社への継続意思確認						

△: 必要に応じて対応

(3) WF 誌のコスト削減の検討

- ・ 案①さらなるページ削減（現 32 頁；前は 44 頁が基本）
  - ※ページ削減の場合、積極的な寄稿募集などは難しくなる（32 頁でも厳しい状況）
  - ※頁の増減は 4 頁単位でしかできないため、原稿が揃わなかった場合や頁超過の原稿などがあった場合の頁調整が難しいのが現状
- ・ **案②年 1 回の発行にして、その分内容を充実させる**
  - ※原稿募集をしやすい、かつ頁が増える分、頁調整も 32 頁のときよりかはしやすい
  - ※頁数が多くなる年度などは増刊号の発行を検討
- ・ 案③電子化（前回の理事会にてあまりコスト削減にならないとの指摘あり）
- ・ 案④年 1 回にした上で書籍化（イメージとしては、日本生態学会のエコロジー講座などが該当）
  - ※WF 誌の多様な内容を一つのテーマとしてまとめることや、出版社とのやりとりなどを考えると、これまでの WF 誌ならではの自由度が失われてしまうため、あまり現実的ではない

2023-05-30:「野生生物と社会」学会 理事会

### 新幹事の追加 五十音順

- ・伊藤 泰幹(北海道大学文学院・博士課程)
- ・菊池 しゆき(自然環境研究センター)
- ・木村 開人(北里大学獣医学部・学士課程)
- ・高畑 優(総合研究大学院大学・博士課程)
- ・本橋 篤(野生動物保護管理事務所)
- ・安田 和真(東京農工大学・学士課程)

### 3役交代 (江別大会時の青年部会総会にて決定)

部会長:古賀達也(京都大学大学院農学研究科・博士課程)

副部会長:金丸太一(環境省 四国管理事務所)

副部会長:高畑 優(総合研究大学院大学・博士課程) ※2023年4月1日より

事務局長:神宮翔真(森林総合研究所)

### 1: R4 年度報告

#### 青年部会幹事打ち合わせ

【日時】2022年6月4日(土)13:00~15:00

【開催方法】ハイブリッド型(東京+Zoom)

#### 【打ち合わせ内容】

- 新幹事を含めた顔合わせ
- 2022年度 予算・企画の確認
- 北海道大会企画の検討
- 青年部会幹事 選挙に関する打ち合わせ

#### 【支出】

項目	金額	備考
交通費	¥87,260	現地参加幹事5名分
雑費	¥5,500	貸しスペース利用料
合計	¥92,760	

#### 「初めて学ぶ鳥獣保護管理法」

【担当幹事】金丸, 古賀, 神宮, 加藤(敬称略)

【日時】2022年7月3日(日)14:00 ~ 16:30

【開催方法】オンライン(Zoom)

### 【企画の主旨】

本企画では、野生鳥獣の捕獲に係る研究を行う学生や捕獲従事者の方、野生鳥獣の捕獲に興味がある一般の方々を対象に、現行鳥獣保護管理法の概略や各種許可の仕組みについて有識者の方々に解説していただいた。

### 【招待演者】

高橋満彦 氏(富山大学 学術研究部教育学系 教授)

遠矢駿一郎 氏(環境省 自然環境局 野生生物課 鳥獣保護管理室 室長補佐)【講演内容】

- ・基本的な鳥獣保護管理法の歴史や概要と関連法令の解説
- ・最新の鳥獣保護管理法の動向と鳥獣保護管理法のルール

### 【参加者】

約200名の申し込みがあった。

### 【支出】

項目	金額	備考
謝金(高橋)	¥8,000	
合計	¥8,000	

## 「他分野のアプローチに触れる若手研究座談会ー野生動物管理の学際的議論にむけてー

【担当幹事】古賀, 渡邊, 高畑, 豆野(敬称略)

【日時】2023年3月4日(土) 13:00 ~ 16:35

【開催方法】ハイブリッド(東京 & Zoom)

【開催場所】千代田区神田佐久間町2-15秋葉原加藤ビル2階

### 【企画の主旨】

本企画では、各学問領域の意義や野生動物管理への貢献について博士課程の若手研究者に話題提供をしていただきながら、学問の垣根を超えた学生・若手間での交流と議論の場の提供を目指した。(詳細はワイルドライフフォーラム誌にて報告)

### 【招待演者と演題】

- ・Wildlife Managementとは(稲穂太一 東北野生動物保護管理センター)
- ・生態学が果たすEBPMへの貢献(同上)
- ・野生動物管理とゲノム解析の意義(遠藤優 北海道大学理学院)
- ・獣医学から向き合う野生動物管理(石黒佑紀 帯広畜産大学)
- ・野生動物管理への質的研究の貢献(高畑優 総合研究大学院大学)

・野生動物政策の政策過程分析(古賀達也 京都大学大学院)

【参加者】

本企画は、計118名に参加登録していただき、当日の参加人数は現地で30名、オンラインで60~70名であった。参加者の6割は学生(学士から博士まで)であったが、研究所職員や行政職員の方にも多数参加していただいた。また、参加者の7割は自然科学を専攻しており、1割が社会科学であった。

【支出】

項目	金額	備考
貸し会議室レンタル料	¥42,259	1h1万円×5h
謝金と交通費(遠藤)	¥48,660	
謝金(遠藤)	¥8,000	
謝金と交通費(稲穂)	¥15,670	
謝金(稲穂)	¥8,000	
謝金と交通費(石黒)	¥30,370	
謝金(石黒)	¥8,000	
合計	¥160,959	

## 2: R5 計画

### 青年部会幹事会

【日時】2023年6月3日(土)～4日(日)

【開催方法】オンサイト(つくば)

#### 【活動内容】

- ・新幹事を含めた顔合わせ
- ・つくば大会のエクスカーション候補地の下見
- ・青年部会の運営体制や企画についての会議

#### 【予算案】

項目	金額	備考
貸し会議室レンタル料	¥5,000	1h2,500円×2h
旅費(7名分)	¥90,000	
合計	¥95,000	

### 若手研究発表交流会(仮)

【担当幹事】古賀, 高畑, 伊藤 (敬称略)

【日時】2023年8月の土日を予定

【開催方法】ハイブリッド(東京&Zoom)

【定員】現地50名、オンライン30名まで

#### 【企画主旨】

本企画は、野生動物もしくは人間社会について研究をする若手の学生に対して、研究発表と参加者同士での交流を提供することを目的に実施する。発表内容は完遂したもののほか、研究計画まで広く受け付ける。

#### 【企画の流れ】

- ❖ オンライン上で研究発表交流会(13:00~15:00)
  - ・4~5人程度のグループに分かれ、各人5分程度の発表&質疑。
  - ・グループのシャッフルを4回行う。
- ❖ オンサイトでの研究発表会(15:30~17:30)

#### 【予算案】

項目	金額	備考
貸し会議室レンタル料	¥60,000	1h1万円×6h
合計	¥60,000	

## 大会エクスカージョン 「とかいなか」のワイルドライフマネジメント (仮)

【担当幹事】 神宮, 古賀, 金丸, 高畑, 渡邊, 木村, 安田 (敬称略)

【日時】 2023年12月3日午後

【定員】 現地20~30名

【企画主旨】

青年部会企画「都会で田舎」な街、つくば。そんな場所ならではの人と野生生物の関係があります。本エクスカージョンでは、OECM(自然共生サイト)候補地を含む里地里山を巡りながら、地域関係者との交流・議論を予定しています。

【企画の流れ】

・つくば市のほか、土浦市も訪問予定。現地視察後、つくば駅周辺の  
コワーキングスペースでワークショップ開催。

【予算案】

部会からの持ち出し6万円、参加費収入10万円を見込む。

項目	金額	備考
事前現地検討会開催費	¥31,000	移動費(幹事)、宿泊費(4名)
貸し会議室レンタル料	¥15,000	1h7,500円×2h
移動費(25名分)	¥80,000	バス貸し切り
講演者謝金	¥16,000	
青年会員参加支援	¥10,000	5名に参加費の半額を補助
事務費	¥8,000	資料印刷費、通信費等の雑費
合計	¥160,000	

## 決算報告資料

収支報告書  
**「野生生物と社会」学会青年部会令和4年度決算**  
 会計報告責任者: 神宮翔真(森林総合研究所)  
 作成年月日: 令和5年3月31日

単位: 円

	科目	予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
収入の部	(基本収入)						
	令和3年度繰越金	149,019			149,019	0	
	令和4年度支援金	200,000			200,000	0	
	(事業収入)						
	現場企画	50,000				△ 50,000	
	シンポジウム企画	0				0	
(その他)							
雑収入	0				0		
	収入合計	399,019			349,019	△ 50,000	

	科目	予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
支出の部	(事業支出)						
	現場企画	200,000			160,959	△ 39,041	3月14日会議室レンタル料・講演者交通費・企画謝
	シンポジウム企画	50,000			8,000	△ 42,000	7月3日企画謝金
	大会企画	50,000			0	△ 50,000	
	(事務・その他)						
	交通費	70,000			87,260	17,260	臨時幹事会旅費
	文具	2,000			0	△ 2,000	
	雑費	2,000			7,130	5,130	幹事会開催のための会議室レンタル料・ゆうちょ銀行手数料等
	通信費	25,000			44,420	19,420	Zoom
		支出合計	399,000			307,769	△ 91,231

	科目	当初予算額			決算額	増減(決算-予算)	備考
	収入合計	399,019			349,019	△ 50,000	
	支出合計	399,000			307,769	△ 91,231	
	収支差額	19			41,250	41,231	

## 予算報告資料

収支報告書  
**「野生生物と社会」学会青年部会令和5年度予算**  
 会計報告責任者: 神宮翔真(森林総合研究所)  
 作成年月日: 令和5年3月31日

単位: 円

	科目	予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
収入の部	(基本収入)						
	令和4年度繰越金	41,250				△ 41,250	
	令和5年度支援金	200,000				△ 200,000	
	(事業収入)						
	現場企画	0				0	
	シンポジウム企画	0				0	
	大会エクスカージョン企画参加費	100,000				△ 100,000	4,000円×25名
大会エクスカージョン企画補助	0				0	なし	
(その他)							
雑収入	0					0	
	収入合計	341,250			0	△ 341,250	

	科目	予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
支出の部	(事業支出)						
	現場企画	60,000				△ 60,000	
	シンポジウム企画	0				0	
	大会エクスカージョン企画	160,000				△ 160,000	
	(事務・その他)						
	交通費	90,000				△ 90,000	幹事会旅費
	文具	2,000				△ 2,000	
	雑費	14,250				△ 14,250	会議室使用料・銀行手数料
	通信費	15,000				△ 15,000	クラウド・ビデオ会議ツール
		支出合計	341,250			0	△ 341,250

	科目	当初予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
	収入合計	341,250			0	△ 341,250	
	支出合計	341,250			0	△ 341,250	
	収支差額	0			0	0	

**2022 年度事業実施状況報告**  
(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

## I 事業計画

### 1. 部会総会の開催

第 27 回「野生生物と社会」学会大会にあわせて部会総会を開催した。

日時：2022 年 10 月 28 日（金） 14 時 30 分～15 時

開催場所：酪農学園大学（大会開催地）及びオンラインの併用による開催

### 2. 第 27 回「野生生物と社会」学会・テーマセッションの開催

第 27 回「野生生物と社会」学会大会において行政研究部会が主催するテーマセッションを開催した。

「鳥獣対策の実務に必要な人材の育成 3～民間企業と行政双方の人材育成に役立つ関係性とは～」

日時：2022 年 10 月 30 日（日） 8 時 45 分～10 時 15 分

開催場所・方法：酪農学園大学での対面形式及びオンライン形式

### 3. 研究会の開催

自主企画の研究会はコロナ禍等により見送り。

### 4. 野生生物行政に関する情報源情報の整備

平成 23 年度および 24 年度に実施した「鳥獣行政」「野生生物保護行政」のアーカイブ保存し、ホームページで公開している資料の目次について、引き続きホームページで公開した。また、今後、閲覧困難な刊行物等について新たにアーカイブ保存し、公開することを検討した。

### 5. 野生生物行政に関する普及啓発手法の研究

### 6. 野生生物行政に関する情報の発信または提言

### 7. 重点プロジェクト「行政ニーズ課題プロジェクト」

都道府県、基礎自治体等への人材育成や人員配置等に関するアンケート調査を実施する方向でアンケート内容を検討した。アンケート実施については、諸所の関係機関と調整中で、今後も継続して調整を図る。

### 8. その他

2022 年野生生物 10 大ニュースの選定・発表を年末に行った。結果は部会ホームページ及びメーリングリストでお知らせした。

## III その他

### 1. 部会員名簿の管理

2023 年 3 月 31 日時点の会員数

部会員 117 名（2021 年度末から 1 名増）

準部会員 101 名（2021 年度末 3 名増）

**2022 年度予算書及び収支中間報告**  
(会計年度：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

## 1. 一般会計

(歳入の部)

(単位 円)

項 目	予算	収入	支出	摘 要
1. 学会からの資金	0	0	—	「野生生物と社会」学会から
2. 2021 年度からの繰り越し金	65,638	65,638	—	
3. 雑収入	—	0	—	
合 計	65,638	65,638	—	

(歳出の部)

1. 事業費	(1)研究会の開催	15,000	—	0	講師謝金等
	(2)野生生物行政に関する情報源情報の整備	5,000	—	0	資料複写代、交通費等
	(3)野生生物行政に関する普及啓発手法の研究	3,000	—	0	交通費等
	重点プロジェクト「行政ニーズ課題プロジェクト」	10,000	—	0	資料複写、アンケート送付経費等
2. 管理費	事務作業手当	20,000	—	20,000	1 名。部会員・ML 管理、会計管理等
	消耗品費	1,000	—	0	文具、用紙等
	会議費	3,000	—	0	会場費、茶菓等
	幹事会出席旅費	0	—	0	
	印刷経費	5,000	—	0	チラシ、資料作成等
	通信費	1,000	—	0	資料郵送代等
	雑費	1,000	—	0	送金手数料等
3. 予備費	1,638	—	0		
合 計	65,638	—	20,000		

歳入－歳出＝ 45,638 円

2023 年 3 月 31 日

「野生生物と社会」学会行政研究部会

部長 横山真弓  
 総務担当幹事 奥山正樹  
 森元萌弥

**2023 年度事業計画案**  
(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

## I 事業計画

### 1. 部会総会の開催

第 28 回「野生生物と社会」学会大会にあわせて部会総会を開催。

日時： 2023 年 12 月 1 日(金)～3 日(日)の間の大会期間中

開催場所： 筑波大学

### 2. 第 28 回「野生生物と社会」学会・テーマセッションの開催

第 28 回「野生生物と社会」学会大会において行政研究部会が主催するテーマセッションを開催する。

「テーマ未定」

※昨年度までの TS で取り上げた「人材育成」をさらに掘り下げたテーマで実施することを部会セミナー担当を中心に検討中。

日時： 2023 年 12 月 1 日(金)～3 日(日)の間の大会期間中

開催場所： 筑波大学

### 3. 研究会の開催

野生動物管理全国協議会が主催するシンポジウム「野生動物管理の人材育成と今後の展望」(6 月 29 日@千代田区立内幸町ホール&オンライン)の共催を検討中。

内容(予定)では、コアカリや人材育成、感染症対策について講演。行政研究部会としても共催して、人材配置などへの意見を集約、発信する機会にしていきたい。

### 4. 野生生物行政に関する情報源情報の整備

平成 23 年度および 24 年度に実施した「鳥獣行政」「野生生物保護行政」のアーカイブ保存し、ホームページで公開している資料の目次について、引き続きホームページで公開する。また、今後、閲覧困難な刊行物等について新たにアーカイブ保存し、公開することを検討する。

### 5. 野生生物行政に関する普及啓発手法の研究

### 6. 野生生物行政に関する情報の発信または提言

### 7. 重点プロジェクト「行政ニーズ課題プロジェクト」

昨年度、検討した人材配置等に関するアンケートを実施する。

配布方法は、関係機関への学会からの依頼やもしくは、個別に依頼する方法等で行う。

### 8. その他

2023 年野生生物 10 大ニュースの選定・発表を年末に行う。

フォーラム誌へ部会活動報告を掲載する。

予定：2023 年夏号「野生動物管理全国協議会」主催(行政研究部会共催調整)の開催報告記事  
2024 年冬号「大会テーマセッション」の開催報告

## III その他

### 2. 部会員名簿の管理

## 2023 年度予算書

(会計年度：2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

## 1. 一般会計

(歳入の部)

(単位 円)

項 目	予算	摘 要
1. 学会からの資金	0	「野生生物と社会」学会から
2. 2022 年度からの繰り越し金	45,638	
3. 雑収入	—	
合 計	45,638	

(歳出の部)

1. 事業費	(1)研究会の開催	15,000	講師謝金等
	(2)野生生物行政に関する情報源情報の整備	0	資料複写代、交通費等
	(3)野生生物行政に関する普及啓発手法の研究	0	交通費等
	重点プロジェクト「行政ニーズ課題プロジェクト」	5,000	資料複写、アンケート送付経費等
2. 管理費	事務作業手当	20,000	1 名。部会員・ML 管理、会計管理等
	消耗品費	1,000	文具、用紙等
	会議費	0	会場費、茶菓等
	幹事会出席旅費	0	
	印刷経費	1,500	チラシ（カラー50 枚）、資料作成等
	通信費	1,000	資料郵送代等
	雑費	1,000	送金手数料等
3. 予備費		1,138	
	合 計	45,638	

2023 年 5 月 11 日

「野生生物と社会」学会行政研究部会

部会長 横山真弓  
 総務担当幹事 奥山正樹  
 森元萌弥

## 北海道のヒグマ、東北・北陸地域を中心としたツキノワグマの大量出沒について (緊急声明)

### 1. 出沒要因について

今年度の秋の大量出沒の直接の要因は、ブナ科堅果類の大凶作によるものですが、これまでも大量出沒は2~4年程度に1度発生し、近年では出沒の規模が大きくなってきました。その背景には、過去10年ほどの個体数の増加と分布の拡大、それともなう市街地周辺における個体数の増加、集落環境にある食物資源（主に柿などの放置果樹）への依存度の進行などがあります。個体数増加と分布域拡大の原因は、里地・里山の環境の変化などいくつかありますが、2000年以降様々な形で個体群に対する捕獲を抑制する政策（個体数の増加か現状維持を図る政策）が執られたことも大きな要因です。

### 2. 対策について

短期的には、①市街地周辺での捕獲と②不要果樹の伐採等の管理が必要です。人の生活圏に不要果樹などクマ類の餌となるものを放置する限り、クマ類を誘引してしまいます。

中・長期的には、各地域の状況を踏まえ、必要な地域では分布域と個体数を一定レベルまで縮減し、人との軋轢の減少を図りながら持続可能な水準で個体群を維持することが求められます。そのためには個体数推定等に必要データ蓄積（モニタリング）と、行政による管理体制の構築、確かな技能を備えた捕獲従事者の確保が必要です。これらの対策を具体化するための検討を早急に進めるべきです。

### 3. 対策にあたる関係者への配慮について

クマ類を持続的に保全管理していくためには、クマ類が生息している都道府県、市町村で対応にあたる行政関係者や従事者、地域の人々といった関係者を応援することが必要です。クマ類は四国の個体群を除き、危機的な状況にはありません。狩猟や有害捕獲も含め年間3,000頭~7,000頭が捕獲されている中でも個体数は増加していると考えられています。クマ類は人との軋轢も大きく、付き合い方を間違えれば人命を奪うこともあり、一定数の捕獲は欠かせません。クマ類との共存のためには、人の生活圏に侵入した個体や再出沒が懸念される個体は捕獲すること、さらには、人の生活圏には侵入させない対策は必要不可欠です。愛護だけでは、地域社会のみならずクマ類の個体群をも守ることができません。

現場で対応にあたっている関係者は、大量出沒に直面してクマと人との共存を実現するために苦渋の選択をしています。関係者への配慮の無い電話や執拗なクレームは、関係者の努力をくじき、かえってクマとの共存を妨げる結果を招きます。現場の関係者への十分なお配慮をお願い申し上げます。